レッスン：PYR NO.24

テーマ：質問と答え

PYR24/KE2005 S11//04

私たちの姉妹・兄弟たちよ、

スピリット、光、火の子供達よ｡私たちは常に主、絶対、主の聖性のなかに抱かれています。

このレッスンは会員達からの質問の時間となります。

Q：生命の木はしばしば私たちのレッスンの主題となりますが、主なポイントを覚えておくためにヘッドラインのような要約をつけることはできますか？

K：生命の木についてまず最初に言うべきことは、それは創造のセル（＊基本組織）であるということです。それは実際に構造であり、骨組みであり、その上に最小から最大まで創造界が築かれています。

　さて、この構造、骨組みの中に創造界の基本的不動の法則があります。それらの法則に創造界の全てが従っています…イデア・ライフ(Idea Life)が現すあらゆる表現、現れさえもがそれに従っています。

　全ての人類の諸法則もあります…実存の諸世界において、現在のパーソナリティーに与えられる潜在的可能性の様々なサイクルのなかで、いかにして人間が現されているか。

　　それらの潜在的可能性のサイクルは人間のイデア(Idea of Man)を通じてLifeの現れを助けてきました…それによって魂のセルフエピグノシス(Soul-Self Epignosis)からの微細なスパークが現在のパーソナリティーを活性化するように。

　言い換えれば、現在のパーソナリティーとしてのこの現れが制限ある表現のなかに入るということです；Lifeの本質が制限のなかに入るということです。

　創造のセルは人間のイデア・フォームの元型がそれに基づいている骨組みです；それなしでは人間のイデアフォームは完全ではありません。

　真理の探究者の努力とは、知識とエクササイズの努力によってこの骨組みを活性化し、エネルギーを与えることです。その結果、現在のパーソナリティーの不定形の諸体が適正な形を帯び、人間のイデアフォームの元型にマッチするように。

　さて、この生命の木には３つの大きな同一の三角形があります。一番上にある三角形は、アウタルキーにある絶対存在を意味しています…そこにはまだディバインの黙想の結果はありません。そしてディバインの黙想の結果として、即座に時間の意味を越えたところに下向きのもう一つの三角形が形成されます。それは最初の三角形と底辺を共有しています。この三角形は汎宇宙的キリストロゴス絶対存在を意味しています；実際それは創造の諸世界に現れている絶対存在なのです。

　そして創造セルの一番下にもう一つの同一の三角形があります。それもまた下向きですが、それは実存の諸世界を意味していますが、同時にそれは現在のパーソナリティーをも意味します。

　次に、創造のセル上にある長方形についてですが、上から見て最初の長方形は絶対存在、絶対存在のディバインの黙想が現れます。このディバインの黙想の結果として、次の長方形があり、その（＊２番目の）長方形では創造が「行われ」そこで様々なイデアを通じてLifeの様々な王国、Lifeそれ自体でさえもが現れます。

　Page2

さて、汎宇宙的キリストロゴス絶対存在を意味する（＊下向きの）三角形の頂点が二番目の長方形の真ん中にあります。この頂点がそこでシンボルを活性化します。そしてそのシンボルとは六芒星ですが、しかし汎宇宙的キリストロゴス絶対存在の三角形の一部がこの長方形のなかにあります。

　ですから、創造の諸世界の中におけるLifeの本質の結果として、人間のイデアフォームの元型があり、それはいわゆる天上人(Heavenly Man)を通じて与えられます。ですから今や、天上人の現れがあり、真ん中には六芒星、Lifeのスパークが「見いだされ」ます、あるいは天上人としての生の海とも言えます；なぜなら、実際、Lifeのスパークと言う時、それは全体のスパークであり、それは多重性です。ここでも再びイエスキリストロゴス絶対存在があります。

　さて、六芒星は２つの小さな三角形から形成されますが；イエスキリストロゴス絶対存在は下向きの三角形であり、実存の諸世界に表現されようとしている全ての現れを活性化します。あなた方は魂のセルフエピグノシスとしての人間のイデアを通じた全てのLifeの現れはどうなのかと質問するかもしれません。それらはこのポイント、Lifeの海からの天上人から来るのでしょうか？

　答えはイエスであり、特定のポジションはありません。それらがこの小さな三角形の頂点から来るのであれ、汎宇宙的キリストロゴスの三角形の底辺から来るのであれ、それはまったく同じです。なぜなら、六芒星を形成する小さな三角形は大きな三角形と同じ本質を有しているので、生命の木のどこにそれが位置しているかは問題ではないからです。

　それでは上向きで､六芒星を形成しているもう一つの三角形については、それは自己実現した現在のパーソナリティーに属します。もちろん、現在のパーソナリティーの三角形は創造のセルの一番下の大きな三角形です。しかし、現在のパーソナリティーが自己実現に到達し、Lifeの本質を現している時、その時には現在のパーソナリティーはまたそのポジションにも属します。

　なぜでしょうか？生命の木を見てみると、3つの同一の三角形があります；２つは先ほど述べた共通の頂点（そこには天上人のセンターがあります）のある長方形の中にあり、３つめの三角形は現在のパーソナリティーを意味する下向きの大きな三角形と底辺を共有している（＊下向きの）三角形で、その下向きの頂点には五芒星があります。

　もし現在のパーソナリティーが現在のパーソナリティーのこの大きな三角形をマスターすると、それはその中にあるものをマスターしたことになり、それは四番目のサイクルを完了したことを意味します。しかし、同時に５番目のサイクルが努力なしに自動的に加えられ、現在のパーソナリティーはもし必要なら存在の諸世界に入ることができますが、そうはしません。

この惑星全体が自己実現するまでは不可視のヘルパーとして実存の諸世界に留まるでしょう。

もちろん、創造のセルのなかには他のシンボルも見いだすことができますが、それぞれのシンボルはおのおの一つの法則を意味します。生命の木に関して全てを分析することはしません。なぜなら、皆さんの多くはそれを学んでいるからです。生命の木、創造のセルに関して既にたくさんのレッスンを受けています。

Q：小さなピラミッドの自分の部屋では、私たちは生命の木を上下逆さまに体験しています。なぜなら、私たちは間違った方向にフォーカスしているからです；いかにしてそれを変え、正しい方向を向くことができるのですか？

Page3

K：それは２番目のサイクルにいる間に、部屋のなかにいる間、現在のパーソナリティーが現すべき努力であり、それによって何が上で何が下かを認識するのです。

　エレブナが与えた知識とエクササイズは探求者がそのドアーを開くのに、180度回転し、ドアーを開き、次のサイクルに入るのに十分以上のものです。

　３番目のサイクルは意識的意識のセルフエピグノシスを提供します。パーソナリティーは気づきを高めるために何が真の利益となり、真の価値があるかを認識することができるようになり、何が上で何が下かを知ることができるようになります。

　2番目のサイクルでは、パーソナリティーがどの方向に向こうとも地のエレメントに面することになります。なぜならば、パーソナリティーがこのエレメントに囲まれており、このエレメントに魅惑され、このエレメントに大きな価値を与えているからです。しかし、それが助けになり、利益があるからといって節度をもってしても決して使うべきではないと言っているのではなく、それに魅惑されるべきではないと述べているのです；全てに節度があるべきです。

　ですから、180度回転して、Lifeそれ自体をもっともっと表現し、他の同胞の人間達に対してより有益となる、より高いレベルの現れへと現在のパーソナリティーを導くドアーに面するように努力すべきです。そうです、なぜなら私たちの第一の仕事とは他の同胞の人間達に対してより有益な存在となることです。

Q：私はどのようにして部屋を出てアベニューに入るのかを幾何学的に理解したことがありません；ガブリエルが私たちの背後にいますが、しかし小さな四面ピラミッドの屋根から出ることを話しています。

K：なぜなら、あなたはこれらが意味する法則を、空間という意味のなかにあるものと見なしていますが、実際にはそれは空間の意味内にあるのではないのです。四面ピラミッドは一つの法則を意味します。各サイドは１つのエレメントを意味しますが、実際にはそれは法則を意味します…現在のパーソナリティーがそのエレメントをマスターできるように助けている法則です。2番目のサイクルのなかで四面ピラミッドがどれだけそのエレメントをマスターすることができるかは、可能性として三面ピラミッドからどれだけ提供されるかによります。

　ですから、幾何学的に取らないでください。なぜなら、シンボルは法則を意味し、それらの法則は三次元を超えているものだからです。2番目のサイクルにいる間に小さな四面ピラミッドをマスターする時、それはあなたが部屋の外にいる自分を見いだすということです。**地球上の大部分の人間は各人のレベルにかかわらず2番目のサイクルにおり、そのパーソナリティーが向きを変えてターンするのはこの四面ピラミッドのなかです。**

　これは最愛のお方（＊イエスキリスト）が準備のできていない人に与えられるべきではないと述べた真珠とは、この鍵のことです。そしてその鍵が今あなた方に与えられるのです。なぜならば、時が来たからです。あなた方がそれをどれだけ上手に使うかは私にはわかりません；しかし、今それがこの地上にいる人類に与えられているのです。

　真のワークは3番目のサイクルでスタートするでしょう。そこではあなた方は地中ではなくて地上にある大きな四面ピラミッドの中にいます；この大きな四面ピラミッドのなかで他の２つのサイクルがあります、3番目と４番目のサイクルです；5番目は？

　5番目のサイクル、それは私たちが同調(attunement)と呼んだLifeの質です。パーソナリティーはもはや意識としての3つまたは2つのセンターを持つことはなく、1つのセンターだけがあります。それはLifeのスパークであり、二元性はもはや必要なく、思考の動きもありません。

Page4

4番目のサイクルはいわゆる超意識的意識のセルフエピグノシスで、パーソナリティーは意識的だけではなく超意識的にセルフを現しており、真の5つの感覚を完全に使用しています。そして勿論、それは3番目のサイクルを完了した後となります。3番目のサイクルを完了すると、実存の諸世界における最大のミステリー（＊神秘）が起きます；そのミステリーとは火の洗礼というミステリーです。

　このミステリーは4番目のサイクルの初めからスタートし、4番目のサイクルの最後に終わります。それは一瞬で終わるようなものではなく、パーソナリティーが4番目のサイクルに入る最初の転生から始まり、そのスパークによって活性化された最後の現在のパーソナリティーが4番目のサイクルを完了するまで続きます。そして自動的に同調という能力を伴う5番目のサイクルが加わります。そしてパーソナリティーは今や人間のイデアフォームとまったく同一の体を使用し、それは天上人の体です。それゆえ、そのポイントはキリスト意識と呼ばれます、なぜなら、その自己実現した現在のパーソナリティーが使用しているのは主の体だからです。

　しかし、前に述べたように自己実現した現在のパーソナリティーはそのステートには留まらず、その波動を下げて転生のサイクルに留まり、他の同胞の人間達を助けます。結局、それはアガピ、主のアガピの現れであるので、この地上からの誰もテオーシス（＊神との再合一）に「到達」した後他の人々を背後にする人はいません。残念なことに、大部分の他の（＊他のグループ、人達）考え方はヘブンを自分達の理解レベルにまで落とし、テオーシスに到達したと話しています。

　実存の諸世界の後、他の4つのヘブンがあります。それらは魂のセルフエピグノシスの諸世界です。そこで何が起きているかは誰も知りません、自己実現にしたパーソナリティーでさえも体験によってそれを知ることはありません。そして何であれ一般に知られているそれに関する知識は同調を通じたものであり、実体験に基づいた知識ではありません。

　ご存じのように自己実現した惑星には創造界で行うべき他の義務があります。私たちは自動的にLifeそれ自体の諸世界に入るわけではありません。言い換えれば、（＊生命の木の）一番上の三角形に入るわけではありません。とんでもないです。**他の太陽系、他の銀河系にいる同胞の人間達を助けるのです。そこではもはや距離というものは存在しません。**

Q：何かを心に描くとはどういうことですか？

K：あなたはエーテルの特質を使って誰かを見ることができ、誰かを視覚化し、その誰かをアガピで、正しい思考で抱きしめるのです。それが私たちができることです。私たちは闘いませんが、抱きしめます。なぜなら、もし闘えば、暴力が再び暴力を生み出します。私たちがやるべきことはその病気を殺しますが、その人を抱きしめることです。

　いつも覚えておくべきです…全ての人間の内側にはLifeのスパークがあり、そして誰かを見るということは自分自身を見るようなことだと。ですから私たちは誰をも等しく抱きしめるのです。

Q：私たちは他の世代と比べると加速化している時代に生きていると言えるでしょうか？

K：そうです、それは進化の結果です。そのように言うことができます。そしてこれらの子供達の先の子供達はさらにもっと進化成長していることでしょう；進化すればするほど、後に続く人々にとってより助けになるのです。初めて自己実現に到達した人は（＊そこに到達するまでに）どれだけ多数回転生したのかわかりません。しかしこれからの人々は自己実現に到達するのに今ほど多くの転生を重ねる必要はなくなるでしょう。常にそのスピードは加速しています。自己実現した人が多ければ多いほど、されにもっと加速されます。

Page5

私はまたセミナーや他のレッスンで、地球上にいる人類の一般的レベルは、自己実現へ到達する道程においてその半分より少し先まで進んでいると述べました。

　（＊今回）初めてこの地球に転生した人間はもはやいません。最初のサイクルに属する人々さえも多くはいません。最初のサイクルのなかでより多くの転生を重ねている人々を見いだすことができます；しかし、多くはありませんが地球上でたったの2回目の転生をしている人々もいます。大部分は2回目またはそれ以上です。

Q：顕現の法則、及び主の祈り「汝の王国が訪れ、汝の意志は天国と同じように地上でもなされるであろう」に関してですが、私の質問は生命の木の上では、ディバインの意志はどこに相当するのでしょうか？それについてもっと知りたいのですが。

K：全てはそれらの法則によるものであり、それらの法則はディバインの終わりなき黙想の結果です。創造の始めがあると見なすことはできません。さもないとそれには終わりもあることになるからです。ディバインの黙想に終わりはありません、そして何であれこのディバインの黙想の結果は内側にあるのです。私たちは活動し、私たちはこのディバインの黙想の中の微粒子なのです。全ての諸宇宙は粒子です。私たちはこのディバインの黙想のなかで活動しています。そして勿論、私たちの最内奥のセルフはこの終わりなきディバインの黙想に参加しています。なぜなら、絶対存在のワンネスを去ったことは一度もないからです。私たちのスピリットセルフは絶対存在のワンネスのステートのなかにあるのです。

Q：しかし、私たちのスピリットは降りてこないのですか？

K：「聖なるモナドであるスピリットセルフ」は決してアウタルキーを去ったことはありません。一度も。スピリットセルフの微細なスパークだけが魂のセルフエピグノシスなのです。私たちの最内奥のセルフはアウタルキーのステートでそこにおり、ワンネスのディバインの黙想に参加しています；そこでは一つのスピリットを他と分離することはできません。

　あるイデアを通じてセルフエピグノシスの質と共に「降りて来る」のは魂のセルフエピグノシスとしてのスパークです。セルフエピグノシスの質は人間のイデアに自己実現する能力、他人のワンネスとは異なるワンネスを認識する能力を与えます。それによって私たちはお互いの違いを認識することができ、それが魂のセルフエピグノシスに与えられるのです。それによって私たちの最内奥のセルフが自己実現したものとなり、最終的に自己実現した魂のモナドセルフが「スピリットである最内奥のセルフ」に自己実現を与えるのです。このようにして人がテオーシスに入るのです。

Ｑ：あなたはこの地上には最初の瞬間から人間がいたと言いました。私は少し驚いています。なぜなら、私が知る限り、最初は人間が生きるために必要な酸素がなかったからです。

Ｋ：いいですか、私たちが最初と言った意味は、植物王国が始まり、他の全ての王国も始まり、そして即座に人類が現れました。全ての原因である神がそれらすべてを一瞬にして行うことはできなかったと思いますか？それは時間という意味ではありませんでした。時間はかからなかったのです。

　このリアリティーを体験できる自己実現した人間がいます。そのステートにある地球を見、その表面が火で覆われているのを見ることができます。そして、時折オアシスを見、ある表面にはたくさんの緑と水があります、そのようにしてこの地球上に生命が始まったのです。当時人間たちが恐竜と向かい合っているのを見ることができます。人間にその体験を与える必要がなくても恐竜が存在したと思いますか；それ以外のどのような理由で存在したと言うのでしょうか？

そうです、人間がそれらの巨大なトカゲに向かい合っていたのを見ることができます。そうです、当時人間にとってそのような体験が必要だったのです。

Page6

Q :それでは私たちはどのようにしてスタートしたのですか？もし私たちが常にそのようであったのなら、どのようにしてスタートしたのですか？

Ｋ：私たちは物質化と共にスタートしました。私たちがどこから来たのだと思いますか？私たちは神から来たのです。神が源、原因です。神が全ての原因です。前に説明したように、自己実現した人ですら同胞の人間たちを助けるために物質化させ、必要なだけ同一体を創造することができるのです。そして実際私たちはLifeそれ自体の海から生み出されたのです。その海は神です。私たちの内側には神があり、全ての人がそれを認識する必要があります。神を離れたところに見いだすのではなく、それは内側にあるのです。そのスパークは私たちの内側にあり、そのスパークが神なのです。

Q：弟子たち（＊イエスキリストの使徒たち）はより速く進化成長しますか？

K：彼らは準備ができていました。彼らは潜在的可能性の3番目のサイクルを終了し、火の洗礼をスタートしました。イエスキリストロゴスが去った後、彼らは4番目のサイクルに入りました。私はそれ以上をあなた方に話すことはできません。それは許されていません。わかりませんが、彼らは4番目のサイクルのなかで成長の過程にあるのかもしれません。

Q：火の洗礼とは正確にいってどういうものですか？話してくれますか？

K：いわゆる超意識的意識のセルフエピグノシスを現しているパーソナリティーは様々なエゴの側面を殺し、それらを除去することができます。なぜなら、パーソナリティーが3番目のサイクルを終了すると、古代の神話にあるヘラクレスの能力を持つからです。それが4番目のサイクルのなかでしなければならないことです。しかし、それは簡単なことではありません。結局、パーソナリティーを無知のなかに留める怪物がいるのです。怪物という時、それはエゴの様々な側面を意味しますが、それらを取り去る必要があります。何回の転生が必要かは誰もわかりません；それは非常に個人的なことです。同じことは他の全てのサイクルに関しても言えます。

　4番目のサイクルが終わると自動的に同調という能力がそのパーソナリティーに具わります。最初の転生から最後の転生まで…最後とは自己実現を意味しますが…パーソナリティーは惑星全体が自己実現するまで転生を続けることでしょう。

EREVNA PYR 24KE5 N211/04